

# 授業と社会をむすびつける新聞活用のあり方 ～社会科の授業を通して～

指定校 2 年次 長野市立犀陵中学校 吉澤 孝志

## 1 本校の N I E の現状

一昨年まで、N I E に関わる取り組みとして、本校では社会科を中心に、校内掲示や授業での新聞記事の補助資料としての新聞活用等行ってきました。しかし、他教科や領域での活用は、あまり行われてこなかったのが現状です。昨年度より、N I E の実践指定校をさせていただくにあたり、まず、新聞が身近にある環境づくり、特に自分の生活に必要な情報を入手する手段としての新聞の掲示に力を入れました。続いて、新聞活用を他教科、領域に広めていくことをまず進めていきたいと考えました。その結果、身近な新聞の記事から進路を考える生徒、学習について考える生徒、社会に関心を持つ生徒が多くなってきました。また、特別活動や総合的な学習の時間の発表の場面でも、新聞をフォーマットとして利用した作品づくりが多くなってきました。

## 2 N I E 実践のねらい

### (1) 活字離れの傾向の改善

- ① 新聞の書き方を理解し、教科・各領域で実際に生徒自身が新聞を書いて、表現していくことにより、日々の新聞に親しみをもち、活字離れの傾向の改善につなげていく。
- ② 新聞が社会全般にわたって多面的、多角的に記事が書かれていることを知ることで、生徒自身が自分から新聞を手にとろうとする意欲を持つ。

### (2) 社会的無関心の傾向の改善

- ① 生徒自身が授業で学習していることと社会で実際に起こっていることをつなぐ媒体としての新聞の役割を知り、新聞を使いながら学習をしていこうとする。
- ② 新聞に載っている事実とともに、各新聞社の持つ主義、主張に触れることにより、ひとつの事実に対して様々な考え方があることを知り、自分なりに公正な判断をしようとする態度を身につける。

## 3 実践の概要

ねらい (1) にかかわって→平成 22 年度実践報告書をご覧ください

ねらい (2) にかかわって

### (1) 実践した教科

社会科および総合的な学習の時間

### (2) 新聞の提供状況

新聞については教室や廊下に掲示したものを活用して、自分が気になった記事や興味を持ったりした記事を切り抜き大きな台紙へ貼っていく活動を一定期間継続した。新聞は常に数社分を提供し、多面的、多角的な見方ができるようにした。

(提供状況は以下の通り)

新聞名	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
朝日				○	○	○	○					
毎日				○	○	○	○					
読売				○	○	○	○					
日経								○	○	○	○	
産経				○	○	○	○					
信毎		○	○	○	○							
長野日報									○	○	○	○

## (新聞を利用した学習環境)

### (1) 進路学習

- ① 進路選択の情報として(3年生の高校選択)
  - ・大会の結果
  - ・倍率
  - ・各校の活動についての記事
- ② 将来の職業について(2年生の職場体験学習・キャリア教育の一環として)・ジョブナビ
- ③ 日本の将来・世界の将来について
  - ・各新聞の元旦の社説(教師の解説を入れて)



### (2) 各教科

- ① 国語 書評 図書館の掲示・購入本の選定基準  
白文帳で新聞記事の切り抜き(文章の要約)
- ② 社会 歴史的発見の記事  
選挙・総理大臣の指名・時事的な問題
- ③ 理科 天気図・環境問題



### (3) 新聞をとり入れた実践をする上での工夫

#### ① 生徒の実態から題材を選定する

去る3月11日の東日本大震災は生徒一人一人の心に大きな衝撃が走る出来事でした。この出来事を契機に生徒の新聞を見る目が変わってきました。死者が刻々と増えていく状況。生き残った人々の生活、原子力発電所での事故後の出来事の不安感など一つ一つが新聞に掲載される写真・見出し・リード文から伝わってくるようでした。このテーマは実際に義援金の募金、家族が東北支援のために出張している事実、いつ自分のところでも地震が起こるかわからない不安など自分のこととして考えられる(考えなければならない)問題であり、子どもたちはこれらの記事から政治・経済・環境の様々な動きを学んでいきました。

#### ② 賛成・反対の立場のある題材を選定する

東北の復興は絶対に行わなければならないことです。その財源をどうするかについては、増税か増税をせず国債を発行しての景気の回復を待っての自然な税収

の増加か、世論も別れています。また、消費税の実施についても全体としては賛成が多いがどのように実施するかについての意見は分かれるところです。新聞各社もここについては意見にずれがあります。中学校3年生の公民的分野で「国民生活と福祉」の単元は新聞で現在の社会について知り、税について考え、自分なりの意見を持つために適切な題材と言えます。

#### 4 N I E 実践の内容

(1) 単元名「政府の仕事と租税」(全8時間)

(2) 単元展開

学習内容	指導内容	必要な新聞記事	時間
<p>1 国の歳入と歳出、国民一人あたりの借金額</p> <p>「・歳入と歳出</p> <p>・国債(建設国債と特例国債)</p> <p>・大きな政府、小さな政府」</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>〈学習問題〉日本は、どうしてこんなに多額の借金を抱えているの？</p> </div>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・現在の日本の借金残高(国債残高)の資料を見せ、日本の財政の状況を理解させる。</li> <li>・国の歳入と歳出の内訳を資料集で調べ、学習プリントの表にまとめ、発表させる。</li> <li>・国債について理解させ、それぞれ感想を発表し合う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日本の借金(国債残高)</li> </ul>	<p>第1時</p>
<div style="border: 1px solid black; padding: 10px; margin: 10px auto; width: 80%;"> <p>〈単元を通じての学習問題〉 これ以上、日本の借金を増やさないためには、どのような税制度にすればいいのだろうか？</p> </div>			
<p>2 日本の税の種類とその使い道</p> <p>「・直接税と間接税 ・累進課税制度</p> <p>・税金の使い道」</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>〈学習問題〉日本の税金には、どのような種類があり、どんなことに使われているのだろうか？</p> </div>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日本の税金の種類を資料集で調べ、学習プリントの表にまとめ、発表させる。</li> <li>・累進課税制度を理解するため、数人の有名人の所得税を計算で求めさせ、理解を深める。</li> <li>・税金が身の回りのどんなところに使われているのか資料を参考に考えさせる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・税金の使い道を表す記事</li> </ul>	<p>第2時</p>



<p>3 日本の社会保障制度と国民福祉</p> <p>「・社会保険、公的扶助、社会福祉、公衆衛生</p> <p>・少子高齢化」</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>〈学習問題〉日本では高齢者など立場の弱い人を支えるため、どのような制度がとられているのだろうか？</p> </div>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日本の社会保障制度の内容を資料集で調べ、学習プリントにまとめ、発表させる。</li> <li>・「少子高齢化の推移」、「社会保障給付費の推移」のグラフを考察し、気付いたことを発表させる。</li> <li>・年金保険制度に賛成か反対か自分の考え、発表し合い、年金制度の重要性を理解させる。</li> </ul>	<p>・社会保障制度、少子高齢化を表す新聞記事</p>	<p>第3時</p>
<p>4 日本の税制度と諸外国の税制度の比較</p> <p>「・社会保障費における諸外国との比較</p> <p>・高齢化率の国際比較</p> <p>・高負担、高福祉」</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>〈学習問題〉日本とスウェーデン、税のしくみという観点で考えた場合、どちらの国に住みたい？</p> </div>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日本の税制度と諸外国の税制度、各種消費税の税率の資料をもとに、日本と諸外国のちがいを考察させ、発表し合う。</li> <li>・日本とスウェーデン、どちらに住みたいか理由をもって考えさせ、発表し合う。</li> </ul>		<p>第4時</p>
<p>5 消費税引き上げの問題について考える。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>〈学習問題〉消費税が10%に引き上げられることについて賛成？ or 反対？</p> </div>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新聞記事「消費税10%に引き上げ」を提示し、これまで単元で学習した内容をふまえ、賛成か反対か自分の意見を考えさせる。（単元で学習した内容を想起させて考えさせる。）</li> </ul>	<p>・消費税10%引き上げの記事</p>	<p>第5時</p>
<p>6 前時に各自が考えた消費税の引き上げに「賛成」か「反対」の根拠となる資料を探すため、日本の財政問題等に関する、新聞記事の切り抜きを行い、日本の財政問題等について理解を深める。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>〈学習課題〉消費税引き上げについて「賛成」か「反対」の根拠となる新聞記事を探し、切り抜きをしよう！</p> </div>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新聞を用意し、ここまでに学習した「日本の税制度・社会保障制度・高齢化社会・日本の政治の現状、政府の対策など」に関して、新聞記事の切り抜きを行い、消費税の引き上げに「賛成」か「反対」の根拠を持たせ、日本の税制度に関して理解を深めさせる。</li> </ul>	<p>・新聞</p>	<p>第6時</p>

<p>7 消費税引き上げの問題について、それぞれの考えを發表し合い、消費税を10%に引き上げた方が良いか、引き上げない方がよいか考える。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>〈学習問題〉消費税を10%に引き上げた方がよいのか？引き上げない方がよいのか？</p> </div>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・消費税引き上げに賛成か反対か、前時に考えた自分の考えを發表させる。</li> <li>・グループで、消費税を10%に引き上げた方が良いか、引き上げない方がよいか考え、發表させる。</li> <li>・本時の学習を振り返り、感想を記入し、發表させる。</li> </ul>		第7時 (本時)
<p>8 日本の借金を増やさないための税制度を考え、日本の税制度についてまとめる。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>〈学習問題〉これ以上、日本の借金を増やさないためには、どのような税制度にすればいいのだろうか？</p> </div>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・グループで、日本の借金を増やさないための税制度を考え、發表させる。</li> <li>・単元を通しての感想を記入し、發表させる。</li> </ul>		第8時

(3) 本時における生徒の思考の変化

**学習課題 1** 消費税 10%への引き上げについて「賛成」か「反対」か、前時に考えた自分の考えを發表し合う。

**消費税引き上げ「賛成派」の意見 (14人)**

- ① これ以上、国債（借金）を増やせない
- ② 来年度予算 99兆円で現在の税収では不足
- ③ 5%UP → 10兆円税収UP 10兆円を社会保障へ
- ④ 年金受給 65才 → 70才へ
- ⑤ 震災の復興 20兆円
- ⑥ 高福祉高負担へ（スウェーデン）25%  
→ 税収年間 50兆円増
- ⑦ TPP加盟で景気好転



**消費税引き上げ「反対派」の意見 (26人)**

- ① 税金の無駄使いが多い 今年度 4283億円
- ② 低所得者が苦しむ
- ③ 現在、不景気 → 本来は減税すべき  
→ タイの洪水で日本企業打撃  
→ 現在、物価上昇率 0%  
→ デフレスパイラルになる
- ④ たばこ税、酒税等の嗜好品を増税すべき



**学習課題 2** グループを内閣と想定し、消費税引き上げについて「賛成」か、「反対」かを定める閣議決定を行い、班長（内閣総理大臣）が決定事項を全体で発表する。

手立て① 6人～7人のグループ編成。班長＝内閣総理大臣 班員＝国務大臣

手立て② 反対意見に配慮した政策を考える

手立て③ 自作の新聞の切り抜きを用いて、自分の考えを主張する

### 消費税引き上げに「賛成」した内閣（5内閣）

- ・無駄をなくすため、税金の使い道についての情報を公開する制度を作り、増税。
- ・このままだと国債が増え続ける。借金が将来の僕たちに回ってくるのは嫌だ。食料品は消費税0%にし、たばこ税、酒税をさらに上げる。
- ・生活必需品は0% それ以外は15% →国民の購買意欲がわく・国債（借金）は増えない・社会保障費にまわすことができる。

### 消費税引き上げに「反対」した内閣（1内閣）

- ・数年前、消費税が3%→5%へ  
→2%のUPで景気に影響・一気に5%UPは不景気が加速  
↓  
引き上げず景気回復させ、まずは法人税UPを狙う



**学習課題 3** 本時を終えて、消費税10%への引き上げについて「賛成」か「反対」か、自分の考えを記入する。

### 消費税引き上げ「賛成」（33人）

- ・震災の復興のために上げた方がよいと思う。不景気をとめたり、国債を減らすためにも、やっぱり上げなければいけないと思う。
- ・生活必需品は0%にして、ぜいたく品は25%にすれば（無駄をなくしてから）スウェーデンみたいに高負担高福祉になると思ったから。
- ・借金をなくすためにはやむをえない。不景気になることも覚悟しなければならない。
- ・大平さんのTPP参加加盟の話でますますいいなと思ったからです。また、スウェーデンのように税をあげ、高負担高福祉の町がいい。

### 消費税引き上げに「反対」（4人）

- ・急に税金を上げるのはだめ。国の状況を見ながら上げるべき
- ・今の日本の社会は無駄をなくしていけばまだやっていけると思う。増税はまだ早いと思う。
- ・やっぱり消費税10%は高すぎる。
- ・TPP参加し、景気回復後に税金を上げればいいと思う。

#### (4) 授業の参観者から

##### N I Eアドバイザー（鯛中信彦様）から

- ・授業をはなれたところで、日常的な場面で政治経済の話をするのがどれくらいあるだろうか。今回、消費税 10%引き上げのことを子どもたちのレベルでどの程度切り込んでいけるのかを見たかった。やがて、子ども達も税金を払っていかないと生きていけないという場面に出会うことになる。社会科の授業の中で、消費税のことをどのように考えていけるか。疑問もあったが、今回税率のことまで考えられていた。先生方自身がどのような考えを持っているのか、ということ問われることにもなる。
- ・グループで討論したことはレベルアップになった。
- ・一番最近の世論調査では賛成が反対をちょっとだけ上回っていた。
- ・討論型世論調査（討論しながら自分の考え方を決めていく）というやり方がある。意見が変わることがある。今回の授業はこの形になっていたことにおどろいた。
- ・結論を強引にもっていくことなく、さまざまな立場の考えを聞くことや、優先することを考えていくことが選択基準になっていた。
- ・この学習経験を経るかどうかは、子どもたちの今後に大きなものになる。
- ・社会科に限らず、意見を持ち、意見をきくというレベルアップができるように実践して行ってほしい。

##### 山崎竹宣県N I E推進協事務局長様から

- ・最後の結論を閣議決定になぞらえて一つにまとめた。違う立場の人を納得させなくてはならない。活発な意見がでた。
- ・切り抜きを活用してもらってよかった。切り抜き一つだけで考えの根拠にするのは危うい気がした。メディアリテラシーにつながる。他の人の意見が聞けていてよかった。
- ・T P Pは貿易の障壁をなくそうという考え。
- ・スウェーデンの制度も光と影がある。いい面ばかりなのか。
- ・スクラップの仕方。新聞名、日付は必須。新聞社によって書きっぷりが違う。正しいやり方を覚えて実践してほしい。記事を途中で切ってしまうのも困る。
- ・消費税 3%から 5%に上げて不景気になったという意見がでたが、根拠がはっきりしてなかった。フォローがほしかった。
- ・メディアリテラシーは、記事によって伝え方・考え方が違うということをわかってほしい。

## 5 研究のまとめ

新聞には、「今」が映し出されています。今回の実践の中で、きっかけとして東日本大震災を取り上げ、継続して切り抜きをしたことは、単に消費税の増税を 100 円のものを買って 105 円になるのが、110 円になるかもしれない、120 円になるかもしれないという、お金を支払うことしか考えていなかった生徒たちを、復興のためにはお金がかかる、みんなで負担しなければならないという、国民の本当の意味での義務にまで考えを広げ

た上で行われた授業でした。一見難しいと思われる、税金、経済、政治も新聞の中でわかる部分を個人が少しずつ持ち寄り、紹介し合い、多角的・多面的に見ていけば、かなり正確に世の中が見えてきます。そして、「今」を考えるきっかけになることがわかりました。新聞が現実と教室を結ぶわけではなく、子ども達と新聞が出会ったこと、そういう子ども達が関わり合いながら学び合ったことが、教室と現実社会を結びつけるきっかけになったと考えています。

## **6 残された課題**

今回の実践でもう一つ押さえきれっていないのは、世の中にはいろいろな考えを持つ人々がいて、新聞にもいろいろな考えが反映されているという「今」です。東日本大震災の時の政府の対応・東京電力の対応についての報道1つとっても、ずいぶんとニュアンスが違います。増税についても同様です。事実は1つでも、人や組織の立場によって報道内容は違ってくるのだと言うことを子ども達に踏まえさせる部分も大切にしていきたいところでした。